

MeSHを使った医学用語勉強会：活動の紹介

浅沼愛九（慶應義塾大学大学院）

園原麻里（慶應義塾大学医学メディアセンター）

宇野嘉恵（東京都臨床医学総合研究所図書室）

背景と経緯

的確な医学情報サービスを提供するために、主題を理解するための知識としての医学用語の理解は欠かせない。そこで「MeSH を使えば医学用語の学習は効率的である」との考えのもとに活動しているシソーラス研究会が新たな試みとして、MeSH を使った医学用語勉強会を企画した。2003年12月6日（土）に第1回を開催、現在までに3回行った。

学習範囲と時間配分

第2回が2004年3月6日、第3回は6月12日と、3ヵ月に1回、毎回15名程度の少人数で3時間半のペースで行っている。扱う範囲は1回につきMeSHの1カテゴリーとしていて、第1回のA1カテゴリー（解剖：筋骨格系）から始めて、現在A3カテゴリー（解剖：呼吸器系）まで進んでいる。時間配分は、最初の30分が自己紹介、講師とアシスタントによる対話形式の講義（30分）の後に小テスト（10分）。そして司会が参加者を指名して答え合わせ（10分）、休憩（30分）の後に講義（30分）、小テスト（10分）、答え合わせ（10分）。そして最後に参加者から感想を述べてもらう。

参加者層

参加者の職場は大学図書館が多いが、病院図書室、医学薬学系研究所図書室、学生と幅広い層が参加している。経験年数は1～2年、3～9年、10年以上の各層ともほぼ同数が参加している。

アンケート結果から

次回以降の改善のため、毎回参加者に対してアンケートを行っている。毎回15名という少人数な雰囲気での勉強会なので、参加者からのフィードバックも概ね好評である。特に、予習のために事前に参加申込者に郵送されるテキストは好評を得ている。フィードバックの中には建設的な意見・要望も多く、回を重ねるごとに改善を行っている。具体的な改善としては、第1回が一方的な講義形式で進めた反省から第2回以降はアシスタントと講師による対話形式に変更した。運営スタッフとしては、第3回を終えて、ある程度の手応えを実感すると共にこれからのに向けた更なる改善を検討している。

まとめ

Evidence-Based Medicine が注目される時代になり、ますます医学図書館員には医学知識というものが求められる時代であるが、今後はさらに参加しやすい開催方法や理解しやすい内容を検討していくほか、参加が困難な人のためにシソーラス研究会のホームページ上*で勉強会の記録の公開やコンテンツの公開も行っていきたいと考えている。

*シソーラス研究会．シソーラス研究会．入手先 <http://www.sisoken.net> ，（参照2004-05-14）．